

令和4年度SDGsフォーラム 事業報告

- 1 概要** 本事業は、高校生を対象に、SDGsの目標に着目した探究学習の成果発表の場を設けることで、高校生間だけでなく、地域の方等の評価を受けながら取り組みをブラッシュアップし、探究学習への意識を醸成する機会とする。
今回は、全体の進行等のファシリテーターとして川中大輔氏を招へいし、淡路島内から4校、島外から1校の高校生が参集し、各校1～3つの口頭発表を行った。それぞれの発表では、高校生間だけでなく、地域の方からも質問や意見、感想等が飛び交い、活発な交流が行われた。最後には、川中氏より「探究学習へのすすめ」と題し、ワークショップを行った。
- 2 共催** 認定NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路
- 3 日時** 令和5年2月18日(土) 13:00～17:40
- 4 場所** 洲本 S-BRICK (兵庫県洲本市塩屋1丁目1-8)
- 5 参加者** 発表参加者25名、観覧参加者7名、教員5名
- 6 講師** 龍谷大学社会学部准教授・シチズンシップ共育企画代表 川中 大輔 氏
- 7 来賓** 兵庫県教育委員会淡路教育事務所長 東 弘美 氏、兵庫県淡路県民局副局長 守本 浩二 氏

8 プログラムの日程

		12:30 13:00	13:45	16:15	17:30	17:40
2月18日(土)	受付	<開会式>	<成果発表会>	<交流会>	<閉会式>	解散
		<アイスブレイク>	・口頭発表 ・発表ステージを2つに分けて実施	「探究学習へのすすめ」		

9 プログラムの詳細

【開会式・アイスブレイク】

・開会式では、淡路教育事務所東所長と淡路県民局守本副局長から、探究学習の発表に対する期待と参加者同士の交流から得られる学びに対して、ひと言エールをいただいた。

・講師の川中氏の進行により、アイスブレイクを行った後、本事業の関わり方(グランドルール)のレクチャーがあった。具体的には、川中氏から今日は以下のことを大切にしていこうと生徒と約束した。

(グランドルール)

- ①分かち合って学びましょう。
- ②思っていることを声に出してみましょう。
- ③互いに聴きあって、応答しましょう。
- ④戸惑ったらすぐに相談を。

また、この事業では発表することがメインの目的ではなく、お互いに対話することがメインであることを改めて伝えた。

・参加した高校生は、他校の初めて会う人との関わりの中で、最初は緊張した様子だったが、川中氏の対話を重視したアイスブレイクにより、表情が柔らかくなり、他校の生徒に積極的に話しに行く生徒もいた。



【成果発表会】

- ・発表会では、冒頭に「なぜ発表をするのか？」と川中氏より「問い」が投げられた。報告するというのではなく、自分の探究に対して、他者からの対話を通して「問いをあたためる・考えをよりふくらませる」ということを伝えた。
- ・発表は口頭発表7分、質疑応答10分を目安に行い、AグループとBグループに分けて行った。質疑応答では、オーディエンスの各校の生徒、先生、探究に関わった地域の招待者をそれぞれグループにし、必ずグループから1つは質問をすることとした。
- ・各グループの発表は、パワーポイントを巧みに作成し、役割を持って発表する姿がみられた。実際に、制作した物を持参して紹介したり、動画を使って紹介したりと様々な工夫があった。質疑応答では、時間を超えるほど多くの質問が出て、とても活発な対話がされていた。



【交流会】

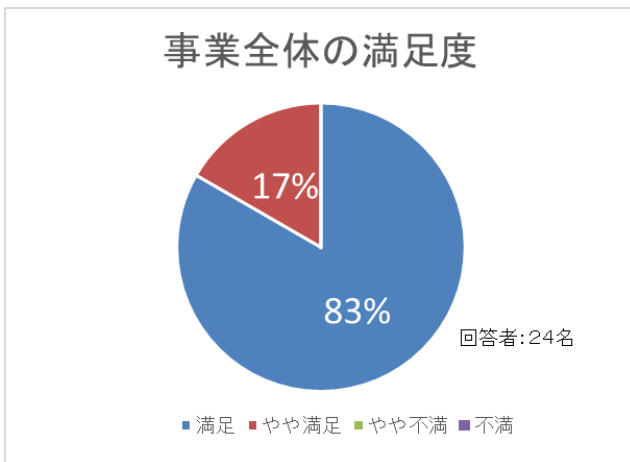
- ・「探究学習へのすすめ」と題して、川中氏より講義いただいた。今年一年取り組んだ探究をふりかえるワークショップや、今ある自分の「問い」を分解して、今後に向けて計画するようなワークショップが行われた。自分が考えていること、思っていることを他校の高校生に話すことで、自分のなかで改めて整理しているようだった。また、他校の高校生の考えや思いに対して、さらに質問してみたり、より話を引き出したりする様子も伺えた。個人作業だけでなく、対話に多くの時間を使い、高校生同士の対話から新しい視点や次への活路を見出すような時間となった。



10 事業の成果～参加者アンケートより～

●事業全体の満足度（生徒22名、引率教員含む）

<参加者からのコメント>

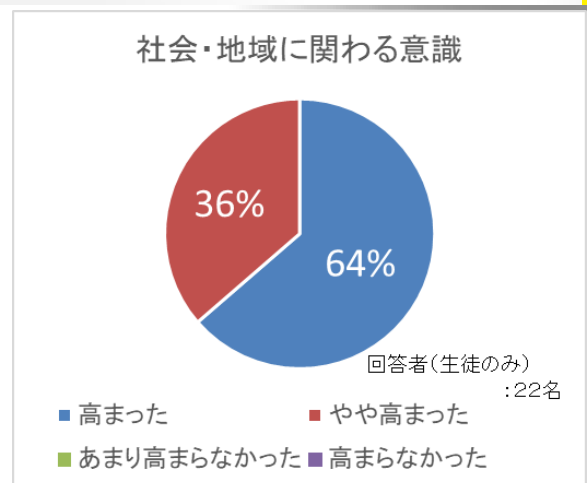
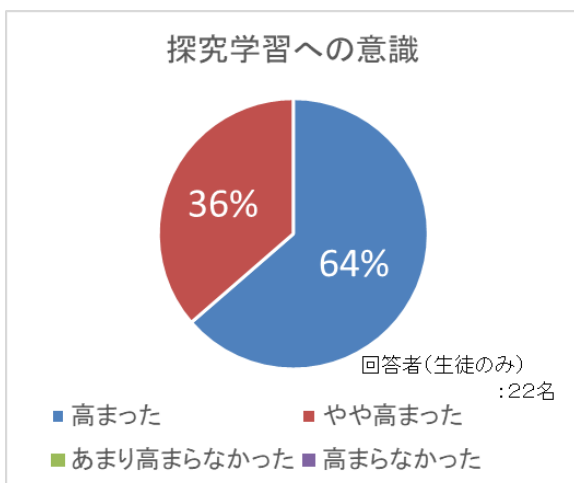


新たな発見があったり、探究について深く考える機会を得られたから。

他校の取り組みを見て探究の幅が広がったから。

他校と触れ合う機会があまりなく、どのようなことを探究しているのかを知る機会がなかったので多くの学校の人と触れ合い、様々なことを学ぶことができたから。

発表する機会は多ければ多いほど良いと考えていて、初めて聞く発表から新たな学びを得ることができるから。今回は自然科学系、社会科学系の両方の幅広い分野の研究を知ることができ有意義なものになった。



<参加者から全体の感想>

これからの探究活動に活かせることが多くあり、勉強になった。発表のあとの質問を考える時やワークシートをする際、他校の方と交流することができ、とても楽しく過ごせた。

自分では考えつかないような研究をしているグループもあったので、色々な視点から物事を見るのが大事だなとおもいました。また他の学校と交流することができて楽しかった。

もっとステージに立って発表するのかなと思ったら、れんが造りのきれいな建物で比較的フラットな感じだったのであまり緊張せず自分たちが探究してきたことを自信を持って発表できた。とても充実した1日になった。

他校の同じ学習をしている人達がどのような視点を持っているのか知れて、興味深かった。また、お互いに質問をしあって直に相手の考えを受け止めることで、新たに改善できるところが増えたので良かった。

(引率教員より)

質問のコツを教えていただいていたおかげで、探究を深まる質問ができていたように思う。他校の発表も生徒たちにとって良い刺激となっていたようだった。

1.1 事業の成果と課題～担当者の所感より～

●成果

今回、高校生の探究学習の支援をされている川中氏を講師に招へいすることができ、成果発表会や交流会の各プログラムがとても中身の濃いものになった。また、淡路島内に限らず、兵庫高校をゲストに招くことができ、淡路島内の高校生もより多様な交流の機会を作ることができたと感じる。

探究学習の成果発表会の機会ではあるが、高校生同士の対話を重視したプログラムとした。専門家からの講評よりも、より親和性の高い高校生同士の意見交換のほうが高校生に響きやすく、対話の中で、お互いブラッシュアップできる要素がふんだんに含まれていることを感じた。

●課題

今回は、淡路島6校（私立も含む）のうち4校の参加にとどまったため、より高校との連携を強め、当事業の在り方や意義を確立していく必要があると感じた。また、淡路島内だけでなく、兵庫県全域の高校生がSDGsをテーマに交流できるような仕組みができるとより深い学びが期待される。

さらに、高校生だけでなく、中学生が探究学習の発表を観覧することができると、進路選択の一助となるほか、中学生のSDGs・ESDの学びのステップとなることが期待される。今回、各学校に探究に関わった地域の方にも参加を促したが、探究を応援する地域の方のネットワーク構築もねらいに掲げることによって、学校、地域との連携が深まると考える。

主催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
淡路島から体験の風をおこそう実行委員会

〒656-0543 兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39

TEL 0799-55-2696 FAX 0799-55-0463

<https://awaji.niye.go.jp/>

共催 認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路

